
こうかん

ライカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

じうかん

【Zコード】

N1716F

【作者名】

ライカ

【あらすじ】

部活の帰り道に拉致られてしまった神矢樹里^{かみや じゅり}。目覚めたら知らない部屋にいた。彼女の身に一体何が起きたのだろうか…

(前書き)

残酷な表現があります。苦手な方はお読みにならないで下さい。それ以外で大丈夫と言う方はお進み下さい。

私の生死は決められている。

神様の為^なされることなら、運命と思つて受け入れられる。
自然の摂理なら皆、平等だと思つ。

でも、私は違う。

私は、神の仕業でも無く、自然の摂理でも無く、人の手によって、
私は人生を終わらせられてしまつ。

「いい加減ここから出してもよ……」

私、神矢樹里。

部活の帰り道を急いで帰っていたら、いきなり後ろから棒の様なも
ので殴られ氣を失ったところをラチられたらしい。

「ねえ！！聞こえてるんでしょーー？」

閉じ込められて多分3日か4日くらいだと想つ。

まず、食事は与えてくれてるから餓死させるつもりは無いらしく
殺しの目的じゃ無いよね。

部屋には、水道もついてるしトイレもある。
まあ、6畳くらいのルームかな……。

でも、入り口は鉄の扉で外から鍵が掛けられてるからそこからは逃
げられない。窓は明かりを取り込む程度で私の手の届かない高さに
あるから無理だし、第一そこからは出られない。

私が太つているって訳じゃなくて子供でも抜けられないよあの窓は

……。

「何が目的なのーー？」

身代金だったら家 うち はお金ないから無理だよーー！」

誰の返事もこないのに一人でワメいでいる。

その時、ガチャッと鍵のあく音がした。

ギーイツと扉が開き人が入ってきた。

黒づくめで顔は隠しているため誰なのか、性別さえ判断できない。

「一体、何なのよー！」

何の目的でこんな事してるのよー？」

私は怒りにまかせ掴みかかる勢いで怒鳴りよった。

そのとき部屋に入ってきたのは一人かと思ったらもう一人私の背後にいたのだ。

後ろの人気に気をとられていたら、ガチャッと音がして手首に手錠をかけられた。背中を押されバランスを崩した私は前倒れになり手首を踏まれ私の頭を両手で掴み完全に動けないようにされた。

後ろで何か動く気配がした。

ジョキ…ジョキ…ジョキ…。

髪が引っ張られる感じがしてすぐに、私の髪が切られている事に気づいた。

「やめてー！やめてよー！」

私の背中まで伸ばしていた白艶の黒髪が無造作に切られていく。不意に目から涙がこぼれた。

「お…お願^ねいだか…らやめてよー」

どんなに、たのんでも止めもらえずに、髪が引っ張られる感じも無くなり、ハサミの音も止まり、その時には私の髪はボーズに近い状態まで切られてしまっていた。

黒づくめの二人、は私の髪を大事そうに袋にしまい、無言のまま部屋を出ていった。

私は髪を切られた事と、何が起きているのか訳がわからず放心してしまった。

気がついた時には辺りは真っ暗だった。

「何が…起^おこつたの…？」

私の…髪は…どうして…切られたの…？」

答えの返つてこない問い合わせを口にする。

「何なのよ…ここから出せーーー！」私は力の限りに鉄の扉を何度も叩き叫んだ。

疲れ疲れて眠つてしまつたのだろう。

「…？」

目覚めた時に何か違和感を感じた。

手足の感覚がまるで無い。

一体どういう事！？

感覚があるのは首から上だけなのだ。

何が起きたのか状況を把握しようと回りを見渡した。

何で動かないの？

これから何が起こるの？

手足が動かないという事に恐怖を感じパニックになつてしまつていった。

ガチャリ

扉の鍵の開く音がした。黒ずくめのあの一人がまた入ってきた。

『手』に『何か』を持つて。

『それ』は…なに？

その『手』に持つている物は…なに？

ギュウーイン…ギュン…

ギュン…ギュウーイン…

『それ』で何をするの？

ガガガガガガッ…！

何？何をしてるの…？

この体に伝わる振動は何！？

ゴトン！！

何の音！？

持ち上げられた『それ』を見なければよかつたと私は後悔した。

『それ』は私の『足』だった。

今さつき切り落とされた私の足…。

あの音は…チエーンソー…？

「うわあああああ…！」

返せえええ…！」

私は動かない体をもて余しながら叫びふ。

声が枯れるまでずっと叫び続けた。

私が叫んで…いや、気が狂っているうちに、足だけでなく私の『腕』も奪われてしまった。

手足を失った私はまだ生きていた。
もう、いやだ…ボロボロと涙が流れた。

もう、死のう…手も足も無くなつて、自分の意思で動く事もできなくなつて生きる気力も無くなつた。

今なら、死ぬのは怖くない…。

舌を噛みきつて死のう…！

がぶつ

「――！」

何で、何で何で何で！？

死ねない…

死ぬ事が…出来ない…。

私の最後の武器が無くなつてる…！

私の『歯』が一本もない！？

それなら…！

息を止めて…！

「…？」

苦しくならない…何で…？
いくら呼吸を止めても、私の肺は空気を取り込んでいた。意図的に
呼吸ができる様に喉から呼吸器が装着されている。

もう…死ねない

「あはははは…」

私は気が狂つた様に笑い続けた。
実際に私は狂いはじめていた。

それから私は何をされても無反応だった。

臓器をすべて奪われようが…

眼球を工グられようが…。

ガラスの前に誰かが立っている。

コボ…コボ…コボ…。

ダ…レ…？

「貴女の脳は要らないわ。

私は貴女になりたいわけじゃないもの。」

少女が私の髪を自分の物のように身に付け、私の足で大地に立つて
いる。

「貴女が、あの時くれるって言ったから私は、それをただ貰つただ
けよ。」

脳だけになつてしまつた私の前に立つた少女は嬉しそうに微笑む。

「ありがとう。…………お姉ちゃん……ふふふ……」

『里乃とお姉ちゃんの体が二つかんできたらいいのにね』

～おしまい～

(後書き)

支離滅裂なこのお話を読んでくださった方、ありがとうございます。
初めてのホラーに挑戦してみました。ちゃんと、ホラーになつてい
たでしょうか?
ご意見ご感想などいただけたら幸
いです。 ライカ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1716f/>

こうかん

2010年11月20日15時28分発行